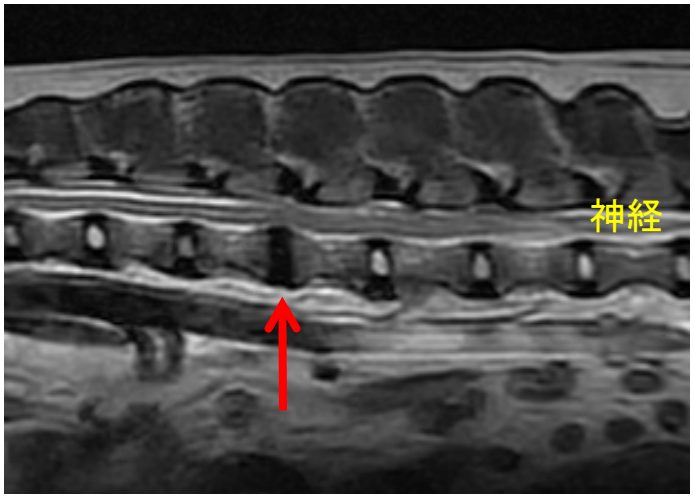
椎間板ヘルニア（IVDD）

どんな病気なの？

○ 主な好発犬種は、ダックスフント・コーギー・ビーグル・ペキニーズなどで、これらの犬種は軟骨異栄養犬種と呼ばれています（足が短い）。
○ 本来椎体同士のクッションの役割を果たしている椎間板物質が変性して飛び出し、神経を圧迫してしまいます。
○ 部位によって症状が異なります。
　頚椎：頚部痛、前後肢麻痺、排便排尿障害
　胸腰椎：背部痛、後肢麻痺、排便排尿障害
○ 神経学的検査、造影X線検査、MRI検査などによって診断します。



椎間板ヘルニアで麻痺が起きている症例のMRI写真。椎間板物質（赤矢印）が下から神経を圧迫しています。

どうやって治療するの？

○ 症状の重度によって内科的治療もしくは外科的治療が選択されます。
○ 内科的治療：
　①ケージレスト→歩き回る、ジャンプすることができない程度で安静
　②ステロイド療法→プレドニゾロン、デキサメタゾン、MPSS
　　（メリット）外科的治療を回避
　　（デメリット）しばしば再発を伴う、ステロイドの副作用
○ 外科的治療：
　椎骨を削り圧迫している椎間板を除去することで、神経の圧迫を取り除きます。
　【頚部】ベントラルスロット術　【胸腰部】片側椎弓切除術
　　（メリット）最も確実性が高い治療法
　　（デメリット）手術侵襲に伴う神経症状の悪化
　　並びに脊髄軟化症の発症

参考：
・犬と猫の皮膚科臨床
・Companion Animal Practice No.231

D.P.C. Daigo Pet Clinic
ダイゴペットクリニック
愛知県豊田市上野町5-1-1
Tel:0565-88-1385
Fax:0565-88-1386

麻痺のグレーディング

分類	グレード	症状
	1	痛みのみ、神経症状なし
	2	歩行可能な不全麻痺、排便排尿可能
	3	歩行不可能な不全麻痺、排便排尿可能
	4	完全麻痺、排便排尿低下、痛覚あり
	5a	痛覚なし、48時間以内
	5b	痛覚なし、48時間以上

治療の効果

グレード	内科療法		外科療法	
	成功率	回復までの時間	成功率	回復までの時間
1	100%	3週間	100%	記載なし
2	84%	6週間	100%	記載なし
3	100%	9週間	95%	1 週間
4	50%	12週間	90%	2.5週間
5a	7%	記載なし	50%(<48h)	2週間
5b			6%(>48h)	
	Davies and Sharp 1983		Lineberger and Kornegay	

片側椎弓切除術
（イメージ）